Ⅱ　令和６年度のあらまし

１　教育事業（詳細はＰ．９～２３参照）

青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の各年齢期に必要とされる体験活動（自然体験、社会体験、生活体験等）の適切な場と機会提供の場とするために教育事業を実施してきた。

「次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業」として、モデル的事業（特色あるプログラム事業・実践研究事業）の長期自然体験『アクティブ・ジオキャンプ 2024』（６泊７日）をはじめ、「課題を抱える青少年の支援事業」として『生活自立支援キャンプ』、「地域ぐるみ事業」として『リオン・ドールキッズプロジェクト』『スマイルばんせい』、「青少年教育に関するモデル的事業」として、学校・団体参加型『地域探究プログラム』、「ボランティア養成・研修事業」として、『ばんボラセミナー』、『ボランティア自主企画（Next Stage Challenge ～中学生への第一歩～）』、「東日本大震災復興支援プロジェクト」として、『第 10 期福島こども未来塾』①～⑦を実施した。

「社会の要請に応える体験活動等事業」として『イングリッシュキャンプ』を計画していたが、国立青少年教育振興機構教育事業部の事業方針の改訂と事業の見直しにより中止となった。それ以外については予定どおり各事業を実施することができ、多くの青少年に体験の機会を提供することができた。

アクティブ・ジオキャンプ 2024

２　研修支援等（詳細はＰ．２４参照）

令和６年度は宿泊利用者数 43,808 人、日帰り利用者数 4,348 人となった。これは年度当初に設定した目標値に対して、宿泊利用者数が 110%、日帰り利用者数が 154%の達成率となる。

今年度は磐梯山登山プログラムの八方台登山口往復コースに加え、猪苗代スキー場のリフトを活用したコースを新たに設定した。また、赤べこの絵付け体験では筆を使った絵付け体験に加え、ポスターカラーマーカーを使った絵付け体験ができるようにした。実際に絵付け体験をした団体からは、準備から片付けまで円滑に活動することができると好評を得られた。事前打合せについては直接来所して相談する方法に加え、ビデオチャットツールを活用したオンライン打合せの方法を設定した。

また、利用者獲得に向けた広報活動を実施した。首都圏の学校団体の令和７・８年度の新規利用者獲得へ向けて、神奈川県川崎市教育委員会への訪問型広報を実施した。

３　地域との連携

（１）運営協議会の開催

令和６年度 国立磐梯青少年交流の家運営協議会名簿（敬称略）

No.	氏　名	所　属　職　名
１	増子　恵二（委員長）	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会長
２	小林　　雄	福島県教育庁社会教育課 課長
３	中野　　充	学校法人新潟青陵大学 福祉心理子ども学部臨床心理学科 准教授
４	角田　守良	福島民報社 編集局長
５	滝田　勝彦	福島県立猪苗代高等学校 校長
６	小川　信二	株式会社シグマ 経営企画本部 会津総務部長

令和６年度は「運営協議会」を１２月にオンライン会議で実施した。国立磐梯青少年交流の家グランドデザインや令和６年度の教育事業等方針について説明し、令和６年度の施設利用状況、教育事業、施設整備状況広報実績等について報告した。

その後、令和７年度施設利用申込状況、教育事業等計画、施設整備計画、広報計画について協議した。

委員一人一人のそれぞれの立場や新たな視点から意見を伺うことにより、当交流の家での取り組みや計画を見直す機会となり、有意義な時間を過ごすことができた。

今後も第４期中期目標・中期計画を踏まえた取り組みに対して、いただいた貴重なご意見を反映させながら次年度の運営に生かしていく。

運営協議会（R6.12.11）

（２）福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会

地域の資源を活かした体験活動の充実の重要性について普及啓発することで、地域の教育を高めるとともに、福島県内で暮らす子どもたちに様々な体験の場と機会を提供して、健全な青少年の成長を促す礎を築くことを目的として、各種団体と連携して特色を生かした体験活動の提供及び普及啓発活動を行った。今年度から福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会を「国立那須甲子青少年自然の家」と共同で立ち上げて、「体験の風をおこそう」普及啓発活動を次のとおり実施してきた。

①「スマイルばんせい」の開催（詳細Ｐ．１３参照）

②「学びいなまつり」他イベントブース出店

③「猪苗代湖の水質向上」のため（猪苗代湖の自然を守る会）の連携（詳細Ｐ．２３参照）

スマイルばんせい
（R6.9.29）

令和６年度 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会名簿（敬称略）

No.	氏　名	所属職名
1	宇南山 忠明	猪苗代町教育委員会 教育長
2	髙橋　敦司	福島民友新聞社 若松支社長
3	佐瀬　誠一	株式会社リオン・ドールコーポレーション 常務執行役員・管理部門管掌
4	小野　保（実行委員長）	国立磐梯青少年交流の家 所長

（３）教育事業における実行委員会

・「アクティブ・ジオキャンプ」企画評価委員会（２回）

企画の段階から運営に至るまで連携、実施をすることにより、大学教授等の専門家の指導や協力を得ることができた。事後検討会も実施し、事業の効果について話し合った。

（４）各高等学校・大学等との連携（ボランティア活動の充実）

各種教育事業を実施するために、各高等学校（会津学鳳高等学校・須賀川桐陽高等学校・田村高等学校・千葉県八千代松陰高等学校）及び各大学（福島大学・新潟清陵大学・新潟医療福祉大学・慶応義塾大学・帝京大学・郡山女子大学)、職業能力開発短期大学校（福島県立テクノアカデミー郡山）の学生に参画をしていただいた。

（５）青少年施設連携

①　東北地区青少年教育施設運営研究協議会

東北地区青少年教育施設の関係者が一堂に会し、各施設における日頃の実践例をもとに研究協議を行い、地区相互の連携を深めることを趣旨としている。今年度は宮城県松島自然の家（宮城県東松島市）が事務局を務め、エスポールみやぎ（宮城県仙台市）を会場として、各施設の運営や施設設備について情報を交換しながら連携を深めた。

②　東北連携会議

国立青少年教育施設東北地区４施設（岩手山・花山・磐梯・那須甲子）の連携を強化し、各施設における業務の活性化を趣旨としている。今年度は花山青少年自然の家が事務局であったが、諸事情により開催は見合わせとなった。

③　福島県自然の家会議

福島県郡山自然の家を中心に、会津自然の家、いわき海浜自然の家、国立磐梯青少年交流の家、国立那須甲子青少年自然の家と連携会議を行ってきた。各施設の利用状況や事業報告、課題や対策についての協議や情報交換が主な活動であった。

４　法人ボランティア表彰

当交流の家を中心にボランティア活動を積極的に行った２名が令和６年度法人ボランティア表彰を受け、表彰状を授与した。

【令和６年度法人ボランティア表彰者】

・帝京大学４年　横田　大河

・会津学鳳高等学校３年　曲山 真菜花